

耐震安全性評価(バックチェック)中間報告の概要について

平成20年4月
原子力安全・保安院

1. これまでの経緯

平成18年9月19日

- 原子力安全委員会において耐震指針の改訂を決定。

平成18年9月20日

- 原子力事業者等に対し、新指針に照らした耐震安全性評価(バックチェック)の実施を要請。

平成19年7月20日

- 新潟県中越沖地震を受け、原子力事業者等に対し、耐震バックチェックの実施計画の見直しを指示。

平成19年8月20日

- 原子力事業者等は、平成20年3月末までに中間報告を提出することなど、実施計画を見直し。

2. バックチェックの報告提出の実績

<既に提出されていたもの>

- 中部電力(株) 浜岡原子力発電所3, 4号機
- 日本原燃(株) 六ヶ所事業所

<今回提出されたもの>

平成20年3月14日

- 北陸電力(株)から、志賀原子力発電所の中間報告提出。

平成20年3月28日

- 東北電力(株)、中国電力(株)、四国電力(株)から、中間報告提出。

平成20年3月31日

- 日本原子力研究開発機構(JAEA)から、もんじゅの最終報告提出。
- 北海道電力(株)、東京電力(株)、関西電力(株)、九州電力(株)、日本原電(株)から、各原子力発電所の中間報告提出※。

※柏崎刈羽原子力発電所については、中越沖地震を踏まえ、地質調査を実施中。今後、その結果に基づく基準地震動の策定と耐震安全性評価を行うため、今回の中間報告には含まれない。

3. 今後の審議の体制

今後、耐震・構造設計小委員会構造WG及び地震・津波、地質・地盤合同WGにおいて、中間報告等の内容の妥当性について検討を行うこととなるが、その対象施設が多数にのぼることから、検討を円滑に進めるため、これらのWGに3つのサブグループを設け、中間報告等の内容について耐震安全性評価に重要となるポイントを抽出し、これについて集中的な検討を行い、半年程度を目途に評価結果をとりまとめ各WGに報告する。

構造WG

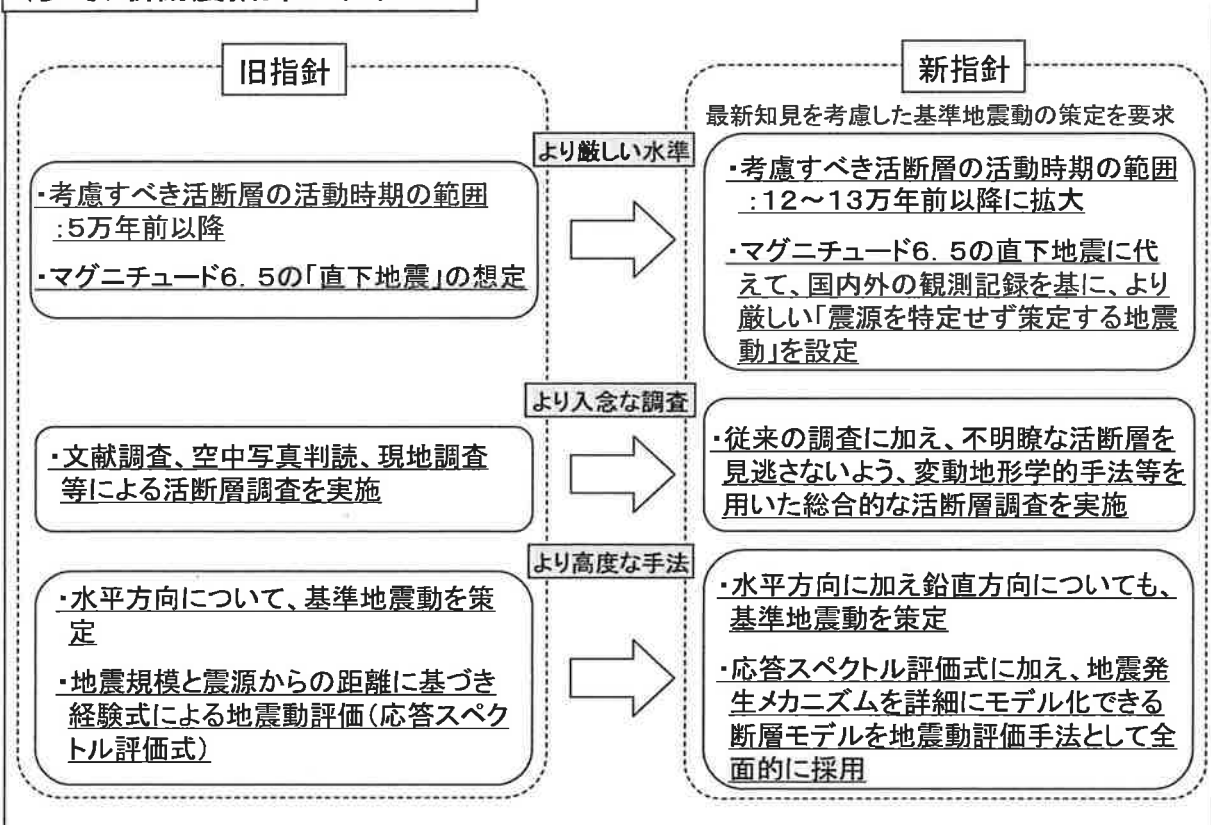
Gr	原子力施設	委員名(敬称略)
A	泊原子力発電所、東通原子力発電所、女川原子力発電所、福島第一・第二原子力発電所、東海第二発電所、志賀原子力発電所、伊方原子力発電所	久保(主査)、橘高、村上、原、高島
B	敦賀原子力発電所、美浜原子力発電所、高浜原子力発電所、大飯原子力発電所、島根原子力発電所、玄海原子力発電所、川内原子力発電所、もんじゅ	西川(主査)、壁谷澤、小林、川島、高島
C	六ヶ所再処理施設、東海再処理施設	西川(主査)、橘高、小林、原、高島

地震・津波、地質・地盤合同WG

Gr	原子力施設	委員名(敬称略)
A	福島第一・第二原子力発電所、東海第二発電所、志賀原子力発電所、伊方原子力発電所、東海再処理施設	衣笠(主査)、安達、吾妻、今村、岩田、北川、駒田、横倉、吉中
B	泊原子力発電所、東通原子力発電所、女川原子力発電所、玄海原子力発電所、川内原子力発電所、六ヶ所再処理施設	翠川(主査)、伊藤、今泉、岩下、岩渕、高田、高橋、溝上
C	敦賀原子力発電所、美浜原子力発電所、高浜原子力発電所、大飯原子力発電所、島根原子力発電所、もんじゅ	纈纈(主査)、宇根、大西、岡村、神田、杉山、高島、高橋、日比野

2

(参考)新耐震指針のポイント



3

耐震バックチェック結果の概要

平成20年4月 原子力安全・保安院

電力会社等	サイト名	基準地震動最大加速度(gal)		主な活断層等	評価のポイント	補強工事の状況
		旧指針	新指針			
北海道	泊	370	550	既別川断層	地質調査に基づく長さ約16kmを孤立した短い活断層としてM7.0で評価。	平成20年3月より実施中。
東北	東通	375	450	想定三陸沖北部の地震	想定三陸沖北部の地震に加え、その他、地震調査研究推進本部の評価(平成16年)を反映。	平成20年4月より実施予定。
	女川	375	580	運動型想定宮城沖地震	平成17年宮城沖の地震を踏まえ設定。	平成20年4月より1号機から順に実施予定。
東京	福島1	370	600	双葉断層	旧指針においては、長さ18kmの活断層として評価。今回はその後の地震調査研究推進本部の評価(平成17年)(40km)を含む47.5kmで評価。	平成18年12月より実施中。
	福島2	370	600			平成20年4月より実施予定
北陸	志賀	490	600	笹波沖断層帯	能登半島地震の震源となった笹波沖断層帯(東部)と笹波沖断層帯(西部)の全長(43km、M7.6)を評価。	2号機の裕度向上工事は終了。引き続き1号機も行う予定。
中部	浜岡	600	800	想定東海地震	想定東海・東南海・南海地震の運動M8.7を評価。	3, 4, 5号機は工事も完了。1, 2号機は今後実施。
関西	美浜	405	600	C断層	近接した活断層を一連として、長さ18km、M6.9で評価。	平成19年4月より実施中。
	高浜	370	550	F ₀ -A断層	変動地形学的調査により全長約23kmとして評価。	平成19年10月より実施中。
	大飯	405	600			平成19年8月より実施中。
中国	島根	456	600	穴道断層	変動地形学的調査等により設置許可時の10kmを22kmに見直し。	平成19年5月より実施中。
四国	伊方	473	570	敷地前面海域の断層群	前面海域42kmの活断層に加え、地震調査研究推進本部による評価(平成15年)も踏まえ、中央構造線断層帯の360kmも考慮。	平成19年4月より実施中。
九州	玄海	370	500	竹木場断層	地質調査に基づく長さ約5kmを孤立した短い活断層としてM7.0で評価。	平成19年11月より実施中。
	川内	372	540	F-A断層	長さ15kmの上飯島東側海域の断層として評価していたが、連続性等を見直し、長さ約18kmとして評価。	平成19年4月より実施中。
原電	敦賀	532	650	浦底-内池見断層	隣接した断層を連続させ、長さ約25kmで評価。念のため、39kmの運動についても評価。	平成19年2月より実施中。
	東海第2	380	600	鹿島灘の地震(プレート間境界地震)	鹿島灘の地震に不確かさを考慮し評価。	平成18年11月より実施中。
原子力機構	もんじゅ	408	600	白木-丹生断層	設置許可時は活断層ではないと評価していたが、トレンチ調査等で後期更新世以降の活動を新たに確認し、長さ約20km(M6.9)の活断層として評価。	平成19年2月から工事を開始し、平成20年1月に終了。